

日本語教育学会 2019 年度九州・沖縄支部支部活動  
調査研究推進委員会コラボ企画 「第三回ワールドカフェ」開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

開催日時：2019年7月20日（日）9：30-11：30

会場：沖縄科学技術大学大学院シーサイドハウス 3階ちゅらホール

参加者：35名（参加者29名、委員6名）



カフェマスターによる開店挨拶！

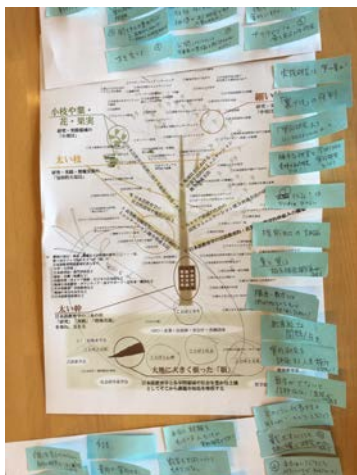
◆調査研究推進委員会は、九州・沖縄支部活動にて、日本語教育学について考えるワールドカフェを実施しました。本委員会によるワールドカフェの実施は3回目で、本委員会のワールドカフェの趣旨を生かしながら、九州・沖縄支部活動の企画に話題を合わせた企画を行うという試みを行った点が特徴です。カフェのタイトルは「日本語教育における質的研究・縦断+横断 <ワールドカフェ>」で、まず、参加者は興味関心に応じて幾つかの「国」に見立てたグループに分かれ、その「国」内で議論します。20分後、各国では一部のメンバーが自「国」に残り、他のメンバーは他「国」を訪れて、その訪問先での議論に加わります。20分後

に再度自分の「国」に戻り、元のメンバーと議論を共有します。これにより多様な考えに触れ、理解や思索を深めることができるようになります。

◆今回は前回とは少しカテゴリーを変え、右の図のような5か国を設定しました。その結果、参加者は、①「質的研究/量的研究」の特徴は？」に5名、②「質的研究における研究者の視点とは？」に8名、③「質的研究における個別性・普遍性とは？」に8名、④「あなたの研究にマッチした研究方法は？」に6名、⑤「質的研究にふさわしい研究テーマとは？」に7名となりました（計5テーブル）。



国際カラー地図



樹形図に付箋を貼って意見交換

◆沖縄の海を臨むカフェ感じ

っぱいの会場で、さまざまな立場の参加者が、質的研究のテーマのもと、多様な経験や意見、考え方を交換しました。参加者がアイデアを出し合ったのは、質的研究を「樹形図=日本語教育に関わる研究・実践・活動の全体像の輪郭」に照らして考える「母国のカフェで、さらに思いを馳せる」ステップでした。事後の感想は「樹形図の中で、量的研究と質的研究と導管と師管に例えてはどうか」「樹形図の根元に「人」の存在が感じられない（ので「人」があつての日本語教育学だということが伝わるよう樹形図を工夫してはどうか）」「（図を1本の木で表さずに）木を増やして雑木林にしてはどうか」などの意見がありました。本委員会は日本語教育の世界探訪のために今後もこの取り組みを続けま

す。今回見えたことを調整しながらよりよいワールドカフェにつなげたいと思います。

（文責：調査研究推進委員会）